

2010年6月26日

オリンパス、米VBを買収、内視鏡利用拡大を狙う

肺疾患治療機器

オリンパスは25日、肺気腫など肺疾患向け治療機器などを開発する米ベンチャー企業、スパイレーション（ワシントン州）を買収すると発表した。投資会社など既存株主から30日付けで全株式を取得する。買収額は約1億ドル（約90億円）。オリンパスが強みを持つ内視鏡と組み合わせて肺疾患治療機器を販売し、内視鏡の利用領域の拡大につなげる。

オリンパスの米国事業を統括する子会社を通じて買収する。スパイレーションは1999年の設立で社員数は約50人。売上高は明らかにしていない。肺の内部に留置して肺の損傷などを治療する機器を製造しており、気管支内視鏡と組み合わせて使う。

オリンパスはこれまで、肺がん検査・治療向けに気管支内視鏡を主に販売していた。スパイレーションの機器を組み合わせることで肺がん以外の分野にも内視鏡の適応領域広げられるという。全世界の肺気腫の患者数は約6000万人と推定され、需要が見込めると判断した。

スパイレーションの製品は欧州で販売を始めているが、米国では臨床試験（治験）中。日本でも治験の準備を進めており、日米で早期の販売開始を目指している。

以上

＝日経新聞＝